

【前奏篇】

（神儀舞第98代）
かむふりまい
藤原和晃
ふじはらわこう

アティス(アトランティス)と
ミウ(ムー)以前からの奥伝

タマヤ フルコトフミ

ヒミの国日本に残された
チタマ(地球)最後の巨大秘密

命を賭し隠し伝えて98代め、ついにそのベールを脱ぐ
タマヤ文字と神儀舞(かむふりまい)の世界
改ざんされなかった地球最古の歴史
新たなる神代文字(タマヤ)を初公開!



ヒカルランド

◎ 「タマヤフルコトフミ」は宇宙からいただいた意識とチタマ（地球）の関わりから、人類の歴史を通して記録されてきました。

◎人類とその造り親の細やかなシステムをはじめとして、太陽のエネルギーをいただき、まず、日神の神々から意識（賜りし）と空間のカガク（神学）のエネルギーを、肉体という器（像^{カミ}）は生命力と物質を司る月神から得て、カガク（神学のエネルギー）のカミ合わせて共同合作されました。ですから、どちらも親神なのです。

◎はじめは日神が神政をされていましたが、途中から月神たちよりの申し出のため、月神へ神政交替が成されました。

◎再び長き歴史が始まり、物質中心へと移行していく過程で、ヒミ（日本）の国の働きを抑え、物質中心の働きをさせるプログラムが遂行され、その歴史に乗った形で国民の精神はどんどんと争いと物質中心の歴史に翻弄され、いつしか日の親である神々へ大変な無礼を働きだしたのです。

◎しかし、物質界の行き過ぎのプログラムは、チタマを地球にした問題点のみならず、日神を執拗に封じ込め、人としてのバランスを狂わせてしまった要因から、とうとう日神へのシステム交替が宇宙連合でも決定されております。

◎一方、物質神の中で、とりわけ抵抗し、あがく存在の働きがあり、最後まで人類に欲を出させ、念で靈魂ひたまを開かせまいと根を付けています。でも、日神への交替準備が着々と進められると、さまざまな現象がいやおうなしに起こり始めるでしょう。

◎つまり、欲で隠した内容はポコポコと臭い蓋が開けられ、表面へ膿が出されてゆきます。企業戦争もますます激しさを増し、自殺者が多発してゆき、自我欲だけで命は二の次というような状況です。

●先代から98代を引き継ぐこととなりました重責を私も感じ、これらの現象予告をおおよそ20年ほどにわたり、各地でも示しの通り伝え続けてまいりました。数年前より、ようやく植物を中心としての資源開発に着手してくださる人々も出てくださり嬉しく思います。

●対処改善と地球クリーニングの度合いは相関関係になっているのです。心を改めず対処改善が遅れば、バランス現象として、地球クリーニングによるさまざまな現象が日に日に増していくことになるでしょう。

◎ヒミ（日本）の国は、神武期より支配と争いの歴史に翻弄され、本来持っていた精神の役割を踏みにじられてきました。

◎現代は長い歴史の清算期に突入しています。今こそ、正しい歴史観を持ち、ヒミの役割を認識するときです。チタマ（地球）が、全人類の命の要であることを思い出しましょう。

◎ 『日本書紀』が漢字で書かれているのは、日本人に読ませるためではなく、天皇という位置づけが、すべて神の直系である、神そのものであるということを信じ込ませるために、こういう書をどんどんつくっていったのです。あれは天皇の謀はかり事です。

◎ 「天照大神」という月の役割の存在あたりまでを境に、皇后がユダヤの血筋としてヒミに入られるのをきっかけとして、ユダヤ民族の人々は前もって調査をかねて入って来ています。以降、ヘブライ・ユダヤ・イスラエルの時代を経て、ヒミを指し、少しずつ移動が始まったのです。

◎ ヒミの地は、これらの民族を抜いては語ることなどできません。

◎神（ヤーエ）と契約を成した神器をいただいているカド族の王である「フル」は「このヒミをまとめる役割を与えられた」と叫び、天皇の座に入れ替わってしまいます。

◎この「フル」こそが神武天皇であるのです。

◎卑弥呼という女性は、南朝イスラエル支族がヒミの国へ連れてきた占いを業とする女の孫娘に当たる「ヌエ」でした。かなり美しかったことから、邪馬台国の女王にさせ、中国との交易を結ばせるために、ヒミコ（卑弥呼）と名付けたとされています。

◎四国は「始国」と書くのです。また「アララキ」と「ヒミノワタル」の共存期間は「すわみ」の地と名付けられています。その後、イスラエルの民族がヒミの国へ入ってくるようになり、平和がかき乱されていくようになります。

◎「月読命の事件」で、アララキは七割は命を失い、残った者は北方面へちりぢりに逃げ、現在の青森の森の中まで逃げていきました。アララキの残された一部が後々のアイヌです。

◎当時の10代目のシャーマンと空海さんが、1回目は793年ごろ、2回目は810年にお会いして、なぜ四国に霊場が必要なのかということをお話したという文献も残っています。

◎88というのは、アマ宇宙の域の端。富士をいただくその富士の意味もちゃんと持っているのです。

◎始国が死国となったのは、ユダヤ民族が自分たちの国をつくるために古い土着の方々であるアララキとヒミノワタル族を根こそぎ征服しようとしたからです。

◎「ヤーエ（ヤハウエ）」というのはユダヤの月氏げっしの神です。その謀り事によって、地上が国造りの拠点となり、大勢の者が殺されました。

◎空海さんがつくった「いろは歌」の意味は「謀り事が解けない」ということです。解けないことを「解かず」といって、最終的には「念を込めたまま死す」ということなのです。

◎ユダの月氏が、後の天皇という位置づけを持つことになりました。神という直系が崇高なる系統のみであると企てていく必要があったのです。なぜならば、差をつけ、戦ってでも国造りを目指し、この地を支配、洗脳して行くためであります。

◎月氏の働きはもう終わりです。そういうふうに偏らせ、戦わせるために人間たちを洗脳、支配したという働きが終わりになります。

◎弥勒みろくというのは月です。「3、6、9」も「6、6、6」もどれをとっても全部18になる。これが月の時代です。弥勒の世の次の数字は1000です。

◎2012年までが弥勒の世、つまり月氏の世です。

◎人の大元を知るには、まず宇宙↓それもカム大宇宙の星団を理解しなければ、先祖神にすら辿り着くことができないと記しておきます。辿れなければ、人の存在も太陽系宇宙そのものも、意味がないこととなります。

◎生命体が完成されたのは「ウサ星」なのです。オリオン星団の中にウサギ星というのがあります。たくさんの星をつなぐとウサギの形になるということで、ウサギ星（うさぎ座）と呼んでいるようですが、本来は月でした。月の神の本拠地星です。そこでいろんなパーツを研究されて、最終的にはすべて完成しました。

◎文献では、初め「ウサ星」（ウサセイ）と示され、人の像カタが完成に至るまで、さまざまな微生物く生命体を研究され、失敗も重ねられています。しかし、宇宙内での争いには関わっておられません。

◎月の役割神が肉体をつくられますが、肉体だけではロボットと同様です。それでは意味を持たないので、意識を頭の一部に入れ、お互い感情の交流を持たせ、ひと靈交として完成されたのです。

◎ヒトカマ人像の造り親神を「つきこさま月子様」と私は申しています。後に地球上での戦いと支配の歴史に連なるげっし月氏の系統とは立て分けています。

はしがき

タマヤ古事文ふることふみ
神儀舞の世界かむかりまい

記紀よりも古い文献「タマヤフルコトフミ」

私がお伝えしているのは「タマヤフルコトフミ」（タマヤ古事文）と申しまして、『古事記』や『日本書紀』よりもずっと前の非常に古い文献に基づいたお話です。太古からの伝承ゆえ、秘匿されてきたタマヤ文字古文書ですが、それを私は講演などを通して、いろいろなところで訳させていただいた内容を譲り受け、お伝えさせていただいております。

天地あまつちの中継ぎをする真のシャーマンとしての巫子、第98代にわたる日巫子ひみこ

たちのことを「タマヤメ」といいます。

タマヤメたちの伝承は、長い時を永らえ秘匿され続けてきましたが、このたび初めて世に公開することに踏み切った次第です。

平成の時代を迎えるまでは、神かむふりまい儀舞（ある先代の時代から神かむふりこしきたまやまい儀古式宮舞とも改称されました）の伝承は、故あって、まったく世に知られていなかったものでした。

しかしながら、私が公開に踏み切ったことにより、天皇や武人たちの戦国の時代を迎え、封印され、命を懸けて秘匿され続けてきた、舞を通しての伝承の数々が、名だたる神宮などでの舞のご奉仕や講演会、雑誌への掲載などを通じて次第に話題となり、徐々に世に知られて行くこととなりました。

講演などでお話をしていると、どういうわけか、ポンポンポーンと言葉が勝手に口をつけて出てくる場合があります。

それは要するに、それぞれの内容に担当する神々がいらっしゃいますので、その神々が「そこは、こうですよ。今この場所で伝えなさい」と、私に指示

をなさっているときなのです。

ですから私の意思とは関係なく、言葉が勝手に口をついて出てくるときは、出るに任せるようにと先代からも先々代からも伝えられております。「力を入れるな、出るに任せよ」と。かといって、「出まかせ」ではないのですよ。

勝手に出てくるといいますが、私が勝手気ままに作った話をお伝えするわけではありませんので、それだけはあらかじめお断りしておきます。

私がお伝えしている内容は、大きく次の四つのテーマに分けられます。

(1) 太古から「タマヤ文字文献」で伝えられていること

・ 私たち肉体を持った人間の太元の存在である意識体や、霊と魂の仕組みについて

・ 音霊と数霊の法則

・ 音霊と数霊から示されている故郷星団の役割と人のつながり

・ スサノオの真実と誤った認識、その他

(2) 太古から「口伝」とタマヤ文字で伝えられていること

文献以外にも口伝によって、さまざまなことが伝えられています。

・「タマヤフルコトフミ」の太古からの歴史における伝承について

・大元の宇宙からの原理を述べ伝える世界観のお伝え

・九州や四国ク ス スワミの地のこと

・古代阿蘇と五色人のこと

・アマミハラ現在の馬見原とヒミコの真実など多岐にわたる

(3) 神示しんじ・神言みこととして降りてくること

・タマヤ文字の神示と神言の託宣

・予言されていた地震（阪神・淡路大震災、東日本大震災など）、竜巻、津

波などのこと

・これからの天変地異の様相

- ・ 危機を回避する方法
- ・ 未来に向けての神言、その他

「神示」は代々継承者にタマヤ文字で降りてくるものです。タマヤ文字は長い歴史の中で散逸し、現存しているものは一節しか確認されていません。3世紀頃のタマヤメの日巫子のものが確認されている最古のものですが、タマヤ文字から日本語に訳しかえられています。

神示とは別に、タマヤ文字ではなく日本語で降りてきたメッセージ（神言）があります。古いものは散逸してしまいましたが、平安時代からのものは現存しております。

(4) 古儀・神儀舞

神儀舞とは太古からの意乗りの法です。太古、言霊の氣の躍動と共に身体の振りをもって大自然に坐します神々に祈念し、場を浄める古儀です。

太古く自然界に於いて中継ぎを行い、音霊・法霊・言霊・ふり霊・数霊・

方位をカミ合わす舞で、日の巫子が奉仕します。

(4)を除く中軸の柱となる三つのテーマを主としてまとめ、「日の伝え」と「月の伝え」などの仕組みを、音霊数霊の「カムノン音霊数霊表」などの公開と共に、世に開示するものです。

インターネットが普及した今日の世の中では、活字による難しい本が読まれる部数は限られているとは思いますが、本書は「初伝へ（入門編）」ということでもありますので、基本的なものをご紹介するだけにとどめてあります。

難しい内容も含まれていますが、できるだけわかりやすく書いたつもりです。本書との出会いをご縁に、「タマヤフルコトフミ」の世界に親しんでいただけましたら幸いに存じます。

はしがき
タマヤ古事文 神儀舞の世界

神儀舞第98代日巫子
光ノ宮
総司

藤原和晃